



# 双松会会報

第27号「双松会」通巻31号「松高北高同窓会報」通巻31号

発行 松江市奥谷町164

島根県立松江北高等学校内 双松会事務局

TEL: 21-4888・21-0655

FAX: 21-4977

印刷 株式会社島根県農協印刷

TEL: 21-3476

青春グラフィティ Vol.4

第16期(昭和40年卒)

## 青春は一回ある……

「還暦が青春を語る」という企画に協力しよう同期の金平氏(16期)に命ぜられ、北高時代の写真を何枚かがめている内に、その多くが楽しくなつかしい思い出であることを再確認でき、うれしくなりました。団塊の世代のハシリと言われる我々が過ごした時代を何と表現していいのかわからないが、本庄の枕木山の草深き麓の村で育った私には、子どもの頃から松江そのものがハレの場、憧れの地であり、北高に通った三年間が青春のド真ん中であつたことは間違いない。

入学早々の応援歌の練習、英語の暗誦での立ち往生、初めての間試験で卒然として悟った能力の限界、歩きに歩いた宍道湖一周、大人になつ



S39. 学園祭の竹造の砦とルーム応援団(川津・校庭)

た気分が上がる。中でも、学園祭で我が家の竹やぶから皆で美保関街道をダツトサンで運んでつくった竹造の砦、我がルームだけが本気で戦って優勝してしまった高三秋のルーム対抗サッカーの思い出……などなど。前後の脈絡は忘却の彼方だが、その一瞬は鮮やかによみがえってくる。本当に、皆、いい顔をしており、まさしくそこに青春があつたのだと、今、あらためて気づかされる。

私は陸上部のマネージャーだったが、クラブ活動で得たものも、また、特別の意味を持つている。当時の雰囲気は昨年の会報の芦田先輩(13期)の文章に詳しいが、中国大会、全国大会も経験し、本庄の在郷の子の目を開かせていた。この経験



S39. ルーム対抗サッカー・優勝イレブン(川津・校庭)

がその後の私の人生を支えてくれていることを考えると、陸上部にはただただ感謝あるのみである。北高、そして陸上部との三年間は、北山の上



松本 耕司

の満天の星空の下、田んぼの蛙の大合唱の洪水に迎えられるながら、夜遅く山中の我が家に帰る日々であつた。流石にその夜景の写真はないが、素晴らしい青春の心象風景を持つていることを内心密かに幸せに思っている。まもなく、団塊のハシリの世代も全員が還暦を迎える。世の有為転変も照る日も曇る日も十分見てきたことになると思うが、最近、母校や故郷はかけがえのない大きな存在であることを特に強く感ずるようになった。この数年、「近畿双松会」の北高世代会員拡大の役をおおせつかつているが、こういった活動の中からも、母校や郷土の発展に貢献したいと願う人の輪が広がり、自然に次の世代にバトン

タッチされていくことを願っている。ところで、縁とは不思議なもの、私の高三時のインハイ陸上競技は大坂であつたが、四十一年ぶりの還暦の今年、奇しくも同じ大坂で開催されることを知り、寺本(5期)、押田(11期)、二階堂(15期)、木島(17期)、渡辺(20期)のOB・OG諸兄弟と一緒に、女子ハードルの中山選手の応援に長居まで出かけた。Mのマークのユニフォームの彼女に、思わずスタンドから「北高の古い先輩だよ」と大きな声をかけてしまったが、振り向いた彼女の笑顔の中に、自分の青春を重ね合わせて感じることができた。それはおそらく、その瞬間、今が青春ド真ん中の彼女と同じ気持ちになつていたらではないかと思う。



H18. 41年ぶりのインターハイの応援(大阪・長居)

サミュエル・ウルマンは「青春の詩」の中で、「人の若い頃は年齢ではなく、理想や情熱を失う時に初めて老いにくる、精神もしぼむ」と語っているが、私も少しでも社会のお役に立てるよう、理想や情熱を失わずに第二の青春を歩んでいきたいものだと考えている。



ごあいさつ

会長

松本幹彦

皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私達の母校松江北高等学校は、明治九年(一八七六年)三月に教員伝修校変則中学科として創設されましたが、その後幾多の変遷を経ながら拡充を続け、今年めでたく百三十周年を迎えました。

昭和二十三年には学制改革によって松江中学校は松江第一高等学校、明治三十年創立の松江高等女学校は松江第二高等学校、明治四十四年創立の松江市立高等女学校は松江市立高等学校となり、翌昭和二十四年にはこれら三校が統合されて松江高等学校となりました。

昭和三十六年、松江高等学校は生徒数の急激な増加によって二千人を超える規模の学校となったため、大橋川を境とする学区を設けて松江北、松江南高等学校に二分化されました。

創設以来明治、大正、昭和、平成と四代にわたって四万有余の有為な人材を世に送り出し、卒業生それぞれが幅広い分野でその手腕を遺憾なく発揮して社会の発展に貢献しておられることはご同慶の至り

であります。

また在校生諸君は、整備されたすばらしい環境の赤山台上で、これまで皆様方が営々と築いてこられた輝かしい伝統をしっかりと受け継いで、『質実剛健』、『文武両道』の校是のもと人格の陶冶に努め、学習面はもとよりスポーツや文化活動の面でも立派な成績を挙げておりますことは喜ばしい限りであります。

十一月十八日(土)十四時から創立百三十周年記念『双松会総会』、並びに松高13期の卒業生で、現在商船三井の社長芦田昭充氏を講師にお招きしての『講演会』、『懇親会』を『ホテル一畑』で開催いたします。五年に一度の総会を楽しく充実したものにとしたいと、常任幹事を中心に各期代表幹事、校内幹事によって実行委員会を立ち上げ鋭意その準備に取り組んでいます。多数の皆様のご参加をいただいて、母校のますますの発展を祈念いたしますとともに、旧交を温め、会員相互の交流の輪を拡げる意義深い総会にしてください。よう心から願っております。

北高ホームページのお知らせ

のお知らせ

昨年の会報でもお知らせいたしました。北高のホームページがリニューアルされ使いやすくなり、母校の最新の動向を知ることができるようになりました。今年行われます百三十周年記念総会関係のお知らせも掲載される予定です。また、双松会関係の情報も掲載してあり、特に近畿双松会のホームページにはリンクが貼ってありますので、双松会員にとっても有用なものとなっております。全国に散る双松会員のみなさん、ぜひ一度アクセスしてみてください。

アドレス  
<http://www.matsuekita.ed.jp/>



北高のホームページのトップページです。ここから左側の「外郭団体」をクリックしていただくか右側「卒業生のみなさんへ」をクリックしていただくと双松会関係の情報が表示されます。

松籟

北高では、七月二十九日(土)に中学生を対象にしたオープンキャンパス(学校説明会)を開催しました。従来から九月中旬に、市内中学生の高校参観は行われていましたが、参観時間も少なく、どうしても高校側からの一方的な説明が中心になってしまいい、北高の魅力が十分伝えきれないまま終わってまいりました。

今回の企画の目的は、少子化が進むなか、多くの中学生に北高の魅力を知ってもらい、入学希望者を増やすことにあります。開かれた高校として積極的に情報発信をしていくことは、これからの時代において、ますますその重要性を増していくと考えます。

とは言え、初めての取り組みであり、準備期間も限られており、まさに手探り状態でのスタートとなりました。事前のアンケート調査ではこちらの予想を上回る三五〇人の参加希望者があり、北高に対する関心の高さを示していました。これに応えるべく全教職員をあげて準備を進め、多彩な体験型の企画をできるだけ用意し、また在校生が説明や校内案内をするなど、中学生が親しみやすく、参加者をお呼びした。

当日は、受付のあと、まず全体ガイダンスを行い、そのなかで学習活動・学校行事・部活動などについて在校生の生の声を中学生諸君に聴いてもらいました。その後は、授業見学のみならず実際に北高での授業を体験してもらおうと、北高の名物教員たちが中学生向けの特別講座を開講。さらに、進路説明会では大学進学を取り巻く現状や大学へ進学することの意義、北高における進路指導の基本方針などを具体的な事例も盛り込みながら説明するとともに、希望者を対象に個別相談にも応じ、北高に対する理解を深めてもらいました。昼食時には購買・食堂にも協力をあおぎ、特別営業をしてもらい、参加者の多くが利用していました。午後からは、各部の部員たちによる趣向を凝らした部活動紹介を行い、その後実際の練習の様子も見学してもらいました。

一三〇年の歴史と伝統を誇る北高。そのなかで変わらぬものがある一方で、時代の流れや地域のニーズに合わせるべく、新たなチャレンジを続ける北高。さらなる進化を遂げる北高。北高パワーを感じさせる一日でした。



歩く130年の伝統に立って

校長 佐藤健治

双松会会員の皆様方には益々御健勝のことと存じます。

明治九年創立の本校は、今年百三十周年を迎え、十一月十八日(土)には松江北高校創立百三十周年記念双松会総会が開催されます。学校においても、九月一、三日に記念学園祭、九月二十三日(土)と十月二十一日(土)にサイエンスカフェin松江を、また十月二十一日(土)には鳥取西高校を迎えての記念招待野球も計画しており、この百三十周年を期に、過去(伝統)を振り返りながら新たな歩みを踏み出すと生徒・教職員が心を一つにしている所であります。先述した学園祭のテーマを生徒会では「歩く130年の北高が創る道」としています。

今春三月の進路状況を見ますと、国立大学合格者二百九十五名、私立大学合格者三百四十三名、短期大学・専門学校合格者百八名となっております。国立大学合格者が三百名を割つたのは残念ですが、現役生だけを比較してみると、一昨年より三十六名多く、また、華々しい成果のあった昨年度より三十名の増加であります。しかし、反面では浪人をしてでも自らの志望を達成しようとする気概のある生徒が減少しており、やや寂しい気がします。

手付き四人乗り)で堂々六位入賞を果たしました。本校ポルト部の全国総体入賞は初の快挙であり、限られた練習時間のなかでの成果は、他の部活動の選手にも大きな励みとなりました。

また、文化系部活動もがんばっています。伝統の合唱部をはじめとして秋のコンクール等に向かって励んでいます。来年の夏は全国高等学校総合文化祭が本県で開催される予定であり、今年もいくつかの部が京都での大会に参加しました。その他、第五回国際高校生フットボールin倉吉で発表した本校のプレゼンテーションは第二位にあたる優秀賞を獲得しました。

こうした本校の教育活動は、まごうことなく130年の歴史と伝統の基盤に立脚したものであります。「文武両道」「質実剛健」を校是としながら、自由闊達な人として育つてくれるよう生徒諸君に二つのことを繰り返して話しています。一つは、「あいさつ」をする人である。眼で笑ってあいさつのできる人になって欲しいということ。二つ目は、本を読む人である。暇があれば本を読む習慣を身に付けて欲しいということ。この二つを繰り返して行っています。近年あまり見かけなくなつてしまつた「凛とした若者」に育つてもらいたくて。

冒頭で紹介いたしましたように、是非百三十周年記念事業に臨席いただきますよう御案内申し上げますとともに、今後とも変わらぬ御支援を賜りますようお願いいたします。

事務局だより

一、松江北高校創立百三十周年記念双松会総会の開催について

前回の会報でもお知らせしたとおり、創立百三十周年を記念する双松会の総会を右のとおり開催します。会員の皆様の参加をお待ちしています。

期日 平成18年11月18日(土) 14時～18時

会場 ホテル一畑 14時～18時

日程 (1)受付 13時20分、(2)記念式典(14時～14時30分)

(3)記念講演(14時35分～15時35分) 講師 芦田 昭充氏

第13期卒業 (昭和37年度卒) 株式会社商船三井

代表取締役社長 演題 『海運を通して見た世界経済』

(4)アトラクション (15時35分～16時5分) 現松江北高生による合唱・弦楽等の演奏

(5)懇親会(16時30分～18時) 記念総会に参加を希望される方は同封の別紙『創立百三十周年記念双松会記念総会の参加申し込み』をよくお読みの上、手続きを行ってください。

二、各地区双松会の動向について

○東京双松会の総会 平成18年9月30日(土) 13時、於 霞ヶ関ビル35階 東京会館

○広島双松会の発会式 平成18年10月28日(土) 16時、於 広島ダイヤモンドホテル

この会報誌上にも発会の経緯の紹介がありますが、お近くにお住まいの会員は是非参加してください。

○東部双松会の総会 平成18年10月29日(日) 18時、安来市内の会場にて

○近畿双松会の総会 (詳細は後日) 平成18年11月26日(日) 14時、於 梅田阪神百貨店

○米子双松会の総会 (詳細は後日) 平成19年1月下旬～2月中旬

三、お礼 本会に対してご寄付をいただきました。 祝原 聡 様

去る五月十七日、松江市千鳥町のホテル一畑、サンシャインホールにて午後六時開会。今年の記念同窓会は全国内五三三名に案内し、出席一六三名(男八四名、女七九名)は、過去五年毎の全国記念同窓会では最多数の集い、会の始まる前のロビーは五年振り、また何十年振り、独特の雰囲気をご想像ください。古稀の歳を迎えたとは思えない弾んだ会話、キラキラ輝く眼差で対面の一瞬。定期的に記念写真撮影、引き続き司会者、吉野富雄君より開会を宣し、ピアノ演奏、玉井洋子さんによる松江高校校歌を斉唱し、五十年を追想する。

世話人代表 森脇義弘君の挨拶、ご来臨の恩師、兼折 博先生の長寿へ励むお言葉や、双松会会長 松本幹彦先生から双松会の近況等賜り、懇親の宴は乾杯とともに話が弾み、当初の指定席も、入れ替わり立ち替わりと、大ホールは溢れんばかりの大盛況。一二の各ルーム毎、自前カメラで記念撮影、親しみ深い同志、在学中面識のない初対面も挨拶を交わし、それぞれ歩んできた友情の絆、宴会二時間では不満の声。ただアルコール類は以前に比べ予算内で済む。閉会時刻となり司会者が、五年後の全国同志の再会を約し、今年宵の二次会は当ホテルの展望ラウンジと案内、一同盛大な拍手で賛同、一本締め合唱で閉会する。

各期だより 松江高校7期(S31年卒) 卒業五十周年記念同窓会を終えて

一九五六年三学期、卒業生六一二名(男二八一名、女三三一名)が西川津校舎を巣立って半世紀、追憶はすべてが懐かしい。坊主頭に白緒の高木履、お河童に三つ組髪で白スツク靴姿が主流。今や、ツル禿に白髪に、超ミニスカートは無理のよう。でもまだまだ老け込む歳(古稀は古の世のこと)ではございません。



あとは夜の巷で小中学校時代、関西、関東、親しい同志の各グループで二次会、三次会と流れ、深夜二時頃迄語りつくした豪傑達者もいたと聞く。また翌日には、松高7期ゴルフコンペに、東、関西、松江の各ブロック責任者へ参加希望二〇名程が、早朝から島根ゴルフカントリー倶楽部でプレーを楽しみ、結果、成績は聞くに及ばないと、大会責任者 池田弘孝君の報告あり。

幾歳も同窓会は追想とロマンの再現でも申しませうか。松江、関西、関東地区とも毎年同窓会を開催しております。一期また一期、同志よ再会を待つている。(引野義就)

**第38期卒業生  
同窓会のご案内**

**日時** 平成19年1月2日(火)  
午後6時〜午後9時

**場所** ホテル一畑 平安の間  
電話番号  
〇八五二二二一〇一八八

**会費** 一〇,〇〇〇円  
(当日お持ちください)

北高第38期卒業20周年を迎えました。

これを記念しまして同窓会を開催する運びとなりました。

同窓会には、これまで我校で教鞭をとられた先生方も多数ご出席頂くこととなっておりますので、皆様お誘い合わせの上、ご来会くださいますようお願い申し上げます。

同窓の友と青春を謳歌した頃の思い出を語り合えることを楽しみにしております。

**双松会支部だより**

第13期 (昭和37年卒) 大木 洋

現在、広島県内在住の松江(北)高校卒業生有志で、東京、近畿、米子、東部、大田に次ぐ「双松会」六番目の支部を広島に立ち上げるべく準備を進めています。発端は、三年前の北高1期生(高13期・昭和37年卒業)の還暦を祝う「北一会同窓会」の席上、広島にも「北一会支部」を呼びかけに、いっそのこと「双松会広島支部」を設立して、先輩・後輩等幅広い年齢層が集い、交流・親睦、情報交換等を図る組織にすべきであるとの声が高まり、その後、同窓生の意向把握に努めるなどの活動を進めてきました。

広島県は、島根県に隣接し、経済・文化、人的な交流、個人情報保護法の遵守という制約のなかで、双松会本部の協力のもと、卒業生の口込み等で卒業生名簿を作成(現在七〇〇名程度把握)する傍ら設立に向け、数回の会合を重ねてきております。

本年五月には、双松会本部校内幹事長の渡邊克彦先生(高23期)に中間試験の最中、御多忙のところ御来広を賜り、支部設立に向けての御指導をいただきました。

発起打合せでは、渡邊先生に双松会の組織現状・体制活動状況及び総会の運営等について詳細な御説明とともに激励もいただきました。

出席の会員も、組織の連絡・運営体制を確立し、卒業生誰もが気軽に参加し、意義のある楽しい会合とすること、本年十一月十八日(日)に行われる「松江北高校創立百三十周年記念双松会総会」で広島支部の設立を報告できよう意志結集を図ることなどを誓い合いました。

広島県及び隣接する岡山県、山口県に在住、就学・勤務等の松江中・(北)高卒業生の皆様で「広島双松会(仮称)」に御入会いただける方は、左記の設立準備事務局まで御連絡ください。

(連絡先)

〒七三九一七四二  
広島市安佐北区亀崎二一九一二六  
石原 通弘 方

TEL 〇八二八四二一四二六  
FAX 〇八二八四二一四二五  
携帯電話 〇九〇一九五〇七二二二二

**近畿双松会だより**

事務局長 永江 幹雄 第13期 (昭和37年卒)

近畿双松会の創設は昭和初頭頃から近畿在住の旧制松江中学卒業生有志により命名され、毎年会合を催し親睦を図っていたことに遡ります。

その後戦争により中断してしまいましたが、昭和三十三年(一九五八年)有志により復興結成されました。更にその後新制松江高校、松江北高卒業生の同窓会組織と統合し今日に至っております。

現在の会員数は四三二名(平成十七年十一月現在)で、その内訳は、旧制松江中学卒業生七一名、新制松江高校卒業生二〇六名、松江北高卒業生一五五名となっております。

近畿双松会の主な行事としては毎年十一月に行われる総会、バスツアーによる日帰り行楽会、春秋二回の懇親ゴルフ会があります。

また、行事ではありませんが年一回発行する『近畿双松会会報』の編集・作成と会員への配布があります。この会報は各行事の報告、各年次のクラス同窓会の報告、自由投稿によるエッセイ、旅行記、短歌、俳句など内容が豊富で会員相互のコミュニケーションの場となっております。

我々が近畿双松会の誇りとなっております。

昨年の十一月に開催された総会には昨年近畿地区の大学に入学された北高卒業生八名を招待するなど新しい試みを致しました。

久々に出席者が一〇〇名を超え、若人を交え賑やかな総会となりました。

また、年一回行うバスツアーによる行楽会はいろいろ趣向を凝らして開催しています。昨年は、秘境シリーズ第二弾として奈良の奥山、天川村ツアーを実施しました。

途中、奈良桜井の大神(おおみわ)神社、飛鳥を訪ねるなど、歴史散策も重ね内容豊富な行楽会となり、参加約四〇名の会員が一日を楽しみ、会員の親睦を深めることができました。さて本年の行事は総会、会

報の作成は従来どおり行方予定ですが本年の行楽会はバスツアー方式を改め、十月に「山の迎の道歴史散策ウォーキング」、十一月に大阪文楽劇場での『文楽観劇会』を企画しています。(演目は『心中天の網島』の予定です。関西の歴史や文化を楽しみ、会員の親睦を深める機会にしたいと思っております。

このように、近畿双松会は過去の先輩諸氏のご尽力により活発な活動を続けてきました。しかしながら、近年会員の高齢化による会員の減少傾向も出てきています。これを阻止すべく、我々役員一同会員拡大を一番の命題として活動をしています。このためには何と云っても、各卒業年次の幹事の方々が積極的にクラス会を関西で開催してもらうことが会員拡大の早道だと思えます。関西在住の卒業生でまだ近畿双松会に入会されていない方は、是非とも下記HPにてご入会いただければ幸いです。このHPは昨年大改造しました。それなりに面白いHPになっておりますので、地元からも全国からもアクセスしていただければと思います。このHPが全双松会員のコミュニケーションの場となればこれに勝る喜びはありません。

以上が現在の近畿双松会の現況と課題です。今後とも本部双松会のご指導、ご支援をお願いする次第です。

(連絡先)

近畿双松会事務局  
〒五五〇一〇〇〇二  
大阪府西区江戸堀二二二一三五  
㈱トヨーコーポレーション内  
TEL 〇六六四四三二二〇六一  
FAX 〇六六四四三二九七三六  
HP <http://www.kinki-soushoukai.org/>



# 平成十八年度 役員会報告

七月二十三日(日)十五時から、『サンラボ』むらくも』に於いて松本会長を議長に次の議題について審議が行われた。参加者は常任幹事十七名、各期幹事三十二名、学校から校長はじめ校内幹事九名、計五十八名であった。なお、審議終了後十六時からは同会場にて懇親会も行われ、盛会となった。

一、平成十七年度会務報告、会計決算報告、監査報告

二、平成十八年度会務計画、同予算案審議

三、平成十八年度発行の「会報」について

四、平成十八年度発行予定の同窓会名簿「双松」について

五、創立百三十周年記念双松会総会の開催について

以上の議題についてはほぼ原案通り承認された。

○「会報」の助成金について本来であれば、今年お願いすべきであったが、百三十周年記念双松会総会への申し込みと錯綜することが懸念されるので、来年度にお願いすることになった。

○従来、記念総会を祝う新聞広告のために各期三万円ずつの拠出をお願いしていたがそれを廃し、今後はその金額を双松会会計への援助に回すことが提案され、承認された。

具体的な拠出の方法等は、今後事務局が各期の幹事宛に連絡して行うこととなった。

平成18年度 双松会会計予算書

【収入】

費目	本年度予算	昨年度予算	増減(△)	備考
入会金	2,599,600	2,693,200	△93,600	全日制 延べ 11,748人×200円 (979名×12ヶ月) 通信制 100人×2,500円
繰越金	1,694,879	748,716	946,163	平成17年度からの繰越金
繰入金	0	1,400,000	△1,400,000	会報編集助成金会計より
雑収入	5,521	8,084	△2,563	預金利息など
合計	4,300,000	4,850,000	△550,000	

【支出】

費目	本年度予算	昨年度予算	増減(△)	備考
会議費	200,000	200,000	0	常任理事会、役員会、各地総会補助
会報発行費	2,800,000	3,300,000	△500,000	会報印刷・送交代
通信事務費	100,000	100,000	0	役員会案内等
記念品費	400,000	500,000	△100,000	卒業記念品代、卒業証書用丸筒代
旅費	350,000	350,000	0	各地総会への本部役員派遣旅費
人件費	50,000	50,000	0	
雑費	50,000	50,000	0	慶弔費等
予備費	350,000	300,000	50,000	
合計	4,300,000	4,850,000	△550,000	

平成17年度 双松会会計決算書

収入総額 5,046,493円  
支出総額 3,351,614円  
差引残高 1,694,879円

【収入】

費目	予算額	決算額	増減(△)	備考
入会金	2,693,200	2,884,400	191,200	全日制 延べ 12,147人×200円 通信制 182人×2,500円
繰越金	748,716	748,716	0	平成16年度からの繰越金
繰入金	1,400,000	1,400,000	0	会報編集助成金会計より
雑収入	8,084	13,377	5,293	寄付金(H17年度卒業生)、預金利息
合計	4,850,000	5,046,493	196,493	

【支出】

費目	予算額	決算額	増減(△)	備考
会議費	200,000	152,700	47,300	常任理事会、役員会、各地総会補助
会報発行費	3,300,000	2,559,736	740,264	会報印刷・送交代
通信事務費	100,000	29,110	70,890	役員会案内等
記念品費	500,000	348,440	151,560	マグカップ代、卒業証書用丸筒代
旅費	350,000	198,400	151,600	各地総会への本部役員派遣旅費
人件費	50,000	50,000	0	
雑費	50,000	13,228	36,772	慶弔費等
予備費	300,000	0	300,000	
合計	4,850,000	3,351,614	1,498,386	

平成17年度 会報編集助成金会計決算書

収入総額 1,583,837円  
支出総額 1,400,000円  
差引残額 183,837円

【収入】

費目	金額	備考
繰越金	1,579,012円	
17年度分	4,730円	17年度振り込み分
利息	95円	
合計	1,583,837円	

【支出】

	金額	備考
本会計へ繰り入れ	1,400,000円	17年度発行会報印刷補助金として
合計	1,400,000円	

## 双松会名簿発行のご案内

平成十八年度に発行予定の同窓会名簿「双松」は、当初予想していたほどには掲載を拒む会員は出ず(会報発送可能者数二八、一五七人の内、二一、〇八人：第一回調査の現在)、予定通り十一月十八日の創立百三十周年記念双松会総会に合わせて発行できそうです。ただし、名簿の予約数が一、八〇〇冊程度と少なく(第一回調査終了現在)、採算がとれそうもない状況です。今からでも結構ですので、ご希望される方にはすでに配布済みの購入の申し込み用紙を利用して、是非お申し込みください。

松江北高校通信制同窓会会計平成18年度予算

Table with columns: 費目, 17年度予算, 18年度予算, 増減(Δ), 備考. Includes sections for 収入の部 and 支出の部.

松江北高校通信制同窓会会計平成17年度決算報告

Table with columns: 費目, 小分類, 予算額, 決算額, 摘要. Includes sections for 1. 収入, 2. 支出, and 3. 特別会計(積立金).

平成十八年度 通信制役員会報告
日時 平成十八年七月八日(土)
場所 松江市殿町
出席 役員一九名、学校側五

議事
①平成十七年度会務・決算・監査報告
②平成十八年度会務計画
案、予算案他、以上について原案どおり了承されました。



西川靖晃 1回戦
0-3 稟原(学悠館) (栃木)



松江北0-3 向陽台大垣平野(岐阜)

松江北3-1 桐ヶ丘(東京)

松江北3-2 札幌北(北海道)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 三本松(香川)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

松江北3-0 丸岡城東(福井)

北高生の活躍

全国定通 体育大会報告

七月末から八月中旬に行われた競技の結果は次のとおりでした。卓球男子団体3位他健闘しました。

男子バスケット(東京体育館)

女子バスケット(東京体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)



伊藤 聖 3回戦
1-3 米地(豊橋) (愛知)

湯浅浩司 5回戦 ベスト16

0-3 米田

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

女子バレー(駒沢体育館)

第四四回鳥根県高等学校 総合体育大会結果報告

五月二十六日(金)から六月四日(日)まで、県内各地を会場に第四四回鳥根県高等学校総合体育大会が行われました。生徒諸君の奮闘により、四年連続二〇回目となる男女総合優勝を果たしました。

- 総合成績
(男女総合Aグループ)
1位 松江北高等学校
2位 松江南高等学校
3位 大社高等学校
(男女別Aグループ)
男子1位 松江南高等学校
2位 松江工業高等学校
3位 松江北高等学校
女子1位 松江北高等学校
2位 出雲高等学校
3位 松江商業高等学校

●ポルト  
 ○滋賀県琵琶湖酒艇場 8/15  
 ○女子ダブルスカル  
 北沢碧(3)・牛尾江里(3)  
 準々決勝進出  
 ○女子舵手付きクオドルプル  
 今岡歩美(3)・矢地紗代子(2)・川本佑美(3)・齋藤舞(3)・安達静花(3)  
 決勝進出・6位入賞

●柔道  
 ○大阪府堺市金岡公園体育館 8/8-12  
 ○女子個人57kg級  
 佐藤みどり(3)  
 1回戦敗退

●テニス  
 ○兵庫県神戸市あわせの村テニスコート 8/25-5  
 ○男子団体戦  
 松江北0-3海星(長崎)  
 1回戦敗退  
 ○男子個人戦  
 飯沼拓也(3)  
 6-8細貝(茨城・日立北)  
 1回戦敗退

●登山  
 ○奈良県天川村・上北山村・大壱山系・大台山系 8/21-25  
 ○団体女子 18位  
 小林碧(3)・大國景子(3)・松井千尋(3)・渡部雅子(3)

●写真  
 ○京都文化博物館他 8/2-6  
 野々村尚子(2)  
 昨年度島根県高校写真展五席の「やさしさ」を出品

●将棋  
 ○京都市 パルスプラザ 8/2-3  
 ○団体戦  
 松本英造(2)・木田川幸紀(2)・金森拓也(2)

●管弦楽(弦楽・吹奏楽)  
 ○京都市 京都公会堂大ホール 8/3-5  
 武田利沙(1)・飯島優(1)・森本春香(1)・飯岡愛紗(1)・池淵雄樹(1)・後藤仁美(1)・藤原有紀(1)・恩田麻由(1)・稲毛茜(2)・安部雅也(1)・中澤菜摘(1)・川野夏生(1)・長谷川芳美(1)

# 全国高等学校バレーボール 選抜優勝大会に出場して

前バレーボール部顧問  
勝田 美鈴

チームを指導して七年目、遂に第三十七回春の高校バレー、全国高等学校バレーボール選抜優勝大会に出場することができました。本校の女子バレー部にとっても、監督である私にとっても初出場です。

宿泊、航空券の手配や練習会場への移動等を全てバスケット部の顧問である藤本先生が引き受けてくださり、私は選手や試合のことだけに専念できるよう学校側に配慮していただきました。

大会は、三月二十日から二十六日までの日程で、全国から五十三チームの参加、国立代々木競技場第一体育館で開催されました。

本校は、初日の二十日、福井県の強豪、北陸高校と対戦しました。一セット目、キャプテンの攻撃で先制点をあげ、一進一退の好ゲーム、二十二対二十二まで並びましたが、チャンスをものにできず接戦の末、落とし

ポイントを重ねるものの、本来のリズムを取り戻せず敗れました。

初出場でもあり全国の大舞台で、自分達の力を出しきることは、至難の技と想っていました。監督の力不足を痛感しました。

結果的には、一回戦で敗れましたが、平日で四〜五時間余り練習する私立高校の多い中、公立で全国トップクラスの進学校として注目を浴び、さわやかな戦いぶりであったとの講評をいただきました。

全国大会に出たいという部員達の強い思いが、勉強と部活の切り替え、短い練習時間の中で集中する取り組みで実を結んだと思います。

高校生バレーボールにとつては、代々木の体育館は憧れの舞台、そのコートに立つことができた感激と喜びは一生の良き思い出として、部員達の胸に残ることでしょう。また、えんじに白で「疾風迅雷」の文字を染め抜いた本校の応援旗や、松江北高校の職をしつかりと掲げ全国に本校をアピールすることもでき

した。旗のもと校長先生、教頭先生をはじめ、多くの卒業生・保護者の皆様で応援席が埋まり、素晴らしい応援をしていただきました。特に、東京双松会の皆様には、大変お世話になりましたことを感謝し、厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、松江北高校の益々の発展と、生徒の皆様の御活躍を、心からお祈り申し上げます。



第58回 学園祭  
あゆみ  
130年の北高が創る道



平成18年度  
前期生徒会長  
2年 村松 和幸

初日の開会式には始まり、講演や一年生のフォーラム、二日目は二年生のR出し物や家庭クラブの喫茶、三日目は体育祭や三年生のページェントなどの例年通りの、しかし今年のみの特例企画の他に、百三十周年という事で文科省の方などをお招きして教育などのテーマについて語り合う「社会の論点」北高を語るや、過去の歴史を振り返る「記念館」などの特別企画も行われ、更に三日目夜には後夜祭も行われました。これらの企画もあって生徒達は学園祭を楽しめたと思えますが、しかし、生徒達にとって最も大きな収穫は、二日間という限られた準備期間でクラスが固結して学年それぞれ課題をこなすことによつて、一層強くなった「絆」ではないでしょうか？

普段とは違うこの「学園祭」という特別な状況だからこそ生まれた、この「絆」によつて次々と迫ってくる苦難をクラス全体で受けとめ、そして乗り越えてゆくことができるようになったのではないかと感じました。

本年度の進学状況

今年の進学状況について報告させていただきます。

平成十五年度からはじまった新学習指導要領で学習した世代が受験する最初の大学入試でした。週五日制・学習内容三割削減をはじめとする「ゆとり教育」を考へた根底に据えた義務教育期を過ごした最初の世代が、構造的に地域・家庭での経済・教育意識の差が教育格差として萌芽するとも考えられている時代の中でぶれることなく、諸先輩が歩まれてきたように、自らの志を貫き、あかやまを巣立っていきました。

控えています。大学によつては世界標準を念頭に据え、世界で戦える日本の研究を模索し、大学院をはじめとする高等教育環境そのものにおいて、競争の原理が鮮明となりました。受験生自体の入学したい大学は、志望が集中し、ある大学では、志高く向学心旺盛で、幅広い教養と貫に出た専門性をもつ人材を獲得し教育・研究する大学と、教養教育・キャリア教育・生涯教育等の役割を果たす大学などへ大学が機能分化する岐路に立っています。その現象は今後は、数年内に高等学校へも随時到来するものと考えられています。

入試方式自体も複雑化・多様化を極めてきています。しかし、北高は迷いません。本校は、大学合格は通過点と考へ、大学の教育・研究で力を発揮し、将来は社会貢献のできる人材を育成するために、一度しかない高校時代に、学びや部活動を通じて、その道で苦勞しながら自らの力で困難を乗り越え目標を極める経験を体現させ、健康でたくましく、気概をもった若人を全力で育て、「質実剛健」「文武両道」の精神を貫き続けます。

今春卒業生は、一年次に島根県を主催県とする全国高等学校総合体育大会「中国04総体」を開催し、全国から訪れた選手を総合開会式で、各競技会場で歓迎、運営をしました。また、ある者は選手として全国の強豪と熱戦を繰り広げ、ここ神話の国に多くの伝説を残しました。さらに、県総体総合優勝三連覇

を遂げ、在学中頂点の座を守り抜いた期となりました。

また、三年生の学園祭後は、学びの集団に鮮やかに変貌し、学力も大きく伸長させました。進学状況については表の通りです。平成十七年三月卒業生から、現役九クラスで臨む入試となりました。

東京大学の合格者数は前年度同数の六名、京都大学四名、旧七帝大及び一橋・東京工業大学を合わせた合格者数は、大阪大学八名をはじめ、合計四四名でした。特筆すべきは、国立大学現役生の合格者数は、総合格者数の八六・一％に及び、年々現役合格が増加しています。医学

進路状況

平成18年度入試学校種別合格者延べ数及び就職者数 (平成18年4月集計)

Table with columns for graduation year (平成16年3月, 平成17年3月, 平成18年3月) and rows for school types (国立大学, 公立大学, 私立大学, 短期大学, 専門学校等, 就職, 合計) and total classes (クラス数).

部医学系の合格者数は九名で、近年五名以内であったことを考えますと、大幅に増え、本県の抱える問題である医師不足への対応をし、有能な医療従事者を育成することも本校の役割であることを認識しております。

私立大学は、センター試験の日程が一月後半となり、各私立大学の一般入試にに接近したことから、移動行程の負担感も相まって、大幅に受験者数が減少しました。特に、関東地区を中心に受験者を大きく減らしましたが、関東同立八二名と難関大学にも多数合格しました。不景気の煽りを受け、生徒一人当たりの私立大学の受験校数は減っており、合格者数も三四二名(対前年マイナスイナス二二)の大幅減となりました。しかし、前年が旧課程最後の駆け込み入試であったことから、前年が例外であったように考へております。

八月帰郷し本校に足を運んでくれる卒業生は、「文武両道」を高いレベルで実践したことが、大学入学後も多くの場面で自信になっていると口々に言います。一歩前に出る勇氣、困難を回避するだけでなく時には成長の機会と考へる余力など、あかやまで育った魂は、全国各地にあります。今後も、若人が、自己を見つめ、自分自身の力で困難を乗り越え、着実に自分の能力を養い、本気で自分を錬成する丘「あかやま」で、率先垂範して教育の充実を追究し続けます。

編集後記

会報編集常任幹事会で一面の青春グラフィティーをこれからは還暦の期にお願いしようと思ひ。思えば今年が我が期、その還暦の同窓会も七月に一〇〇名の友が集い無事終えることができ、大阪の松本耕司君にご快諾をいただき、データで原稿をもらった時は本当に嬉しかった。これから還暦を迎える期は、還暦の年は青春グラフィティーを担当するものと、覚悟をしていた。そして、執筆者を決めておいていただきたい。宜しくお願ひ申し上げます。

会報は卒業生の皆様と双松会・学校とを結ぶ唯一とも言える情報手段です。松本会長以下、役員の方々は、これだけは続けなくてはと強く考へておられます。色んな情報をお寄せください。特に若い期からの意見も期待しています。HPもいいですが、会報に文章を載せるのも良いと思ひます。

最後にお願ひですが、入会者数(卒業生)が激減しています。会員数は増えるばかりです。今後とも会員の皆様の物心両面での絶大なご協力、ご支援をお願ひ申し上げます。

座長 金平 憲 (16期)